

ニコスを完全子会社化

マークテック

鉄鋼業界向け制御システム

アルコニックグループで非破壊検査、マーキング印字装置の国内最大手のマークテック（本社＝東京都大田区、西本圭吾社長）は9月30日、ソフトウェア開発・販売を行うニコスの全株式を取得し、子会社とした。ニコスの制御盤設計製作技術などを既存事業やグループ会社事業に取り込むことで、グループシナジーを発揮する狙い。同社の売上げの4割を占める鉄鋼業界にも、より高品質で細やかなサービスの提供が期待できそうだ。

熱間圧延用、提供可能に

今回グループ化したニコスは工場オートメーションや製品組み込みソフトなど個別システムから、総合システム開発まで手掛けるコンピュターシステムエンジニアリング会社。制御盤による装置制御などを手掛けており、売上げの約6割が鉄鋼業界だという。同社はもとよりニコスの得意先で、受注の3割程度を占めていた。ニコスは4年ほど

前からグループ入りを提案。経営者が技術継承を希望したこともあり、連結子会社化が実現した。

ニコスは山口県下関市に本社と技術拠点を構えており、マークテックの取引先である日本製鉄やJFEホールディングスの製造拠点に近い。グループの西日本拠点として活用し、既存事業のシステム制御を含めた、細かい対応を実現す

多く提供していたが、近年は撤退傾向。安川電機製の制御盤は更新期を迎えたものが多いためビジネスチャンス

だという。ニコスは安川電機のモーションS I認定企業のためノウハウや技術がある。更新ニーズに対応し、売上げ拡大を図る。

ニコスはマークテックグループ入りを契機に、東南アジアなど海外進出を視野に入れ、今までは債権回収などの懸念から難しかったが、マークテックの与信管理の知見や資

金繰りの安定化を活用する。

同社は近年、技術継承事業を第3の柱と位置付けており、品質保証関連のニッチトップ企業のM&Aを通して多角化戦略を進めている。今後も品質保証・ニッチ・科学技術をキーワードに企業買収を推進、さらなるグループシナジーの発揮を図る方針だ。

る。西本社長は「グループシナジーを発揮することで、鉄鋼業の顧客に品質面やアフターサービス面でさらに貢献できる」と胸を張る。製造工程については、ニコスのグループ化で熱間圧延の制御システムの提供が可能になる。すでに同社は冷間圧延の制御システムを提供しており、サービスの幅を広げることがその優位性を高める。従来、鉄鋼業界向けの制御盤は安川電機が

株式会社産業新聞社発行

産業新聞（2020年10月7日）